

1日目(11月21日)セッション概要-1

IT
トラ
ック

IT-1 ツールを利用したWBSの再利用性向上 13:10 マルチディメンションキューブによるWBS作成実演

株式会社ウェッブアイ
代表取締役社長 森川 勇治



【セッション概要】

WBS多次元マトリクスに時間軸(時系列)を加えた抽象空間のことをマルチディメンションキューブと呼ぶ。プロジェクトを定義する重要なデータモデルであるWBSの標準化は、PM関係者の最重要テーマ。しかし、標準的WBSがエンドユーザーに利用されず、標準化からのメリットが享受できない組織が多い。成果物、プロセス、組織階層構造からなる多次元マトリクス上にタスクを配置することにより得られた「プロジェクトモデルの再利用性向上」をデモンストレーションと事例を織り交せて発表する。

【講演者略歴】1984年早稲田大学理工学部卒。2000年株式会社ウェッブアイ設立。今日まで30年間にわたり、600社以上の企業でプロジェクトマネジメントシステム構築コンサルティングに携わり、日本のPM界に貢献。プロジェクト管理セミナーの講師としても活躍。

IT-2 成功例に学ぶ、組織のPM強化の具体策 14:15 プロジェクトを成功させる仕組みと体制、運用とは

株式会社システムインテグレータ
代表取締役社長 梅田 弘之

【セッション概要】

組織のプロジェクトマネジメントを強化しない限り、失敗プロジェクトはなくなる。日本人は失敗事例が好きだが、本来、成功にこそ学ぶべきものがある。失敗プロジェクトを出さない土台作りには、何をすべきかを概念ではなく具体策で持ち帰って欲しい。プロジェクトマネジメントを行う仕組み、プロジェクトマネジャーの育成、メンバーや部門長の意識改革、PMOの役割と活動内容、各人の日々の運用と役割、PM強化によりどんな劇的変化が起こるか、などを成功事例をもとに示す。

【講演者略歴】1995年システムインテグレータ社設立。EC「Web Shopping」、開発支援「Object Browser」、ERP「GRANDIT」、PM「OBPM」などのパッケージを開発。主な著書に「実践プロジェクト管理」や「統合型プロジェクト管理のススメ」「ガラス片手にDB管理シリーズ」など。

IT-3 ITサービスが支える企業の海外進出 15:35 アジアを結ぶマルチプラットフォームサービス

TIS株式会社 IT基盤サービス第1事業部
IT基盤サービス営業第2部 副部長 大橋 英昭

【セッション概要】

日本企業のアジア進出がもはや一拠点に留まらず、国を跨って広域に拡大する今、TISは2012年より日本・ASEAN・中国の3大拠点を結んでITサービスを提供する「アジアマルチプラットフォームサービス」を提供している。海外の特定拠点でのビジネススタート時における事業状況に合わせたITサービスから、複数拠点を結んだ最適インフラ・ネットワーク環境の構築・提供まで、新たなソリューションを新たな市場に提供し始めた経緯とサービスの特徴について紹介する。

【講演者略歴】2001年セキュリティベンダー入社。2003年TIS入社、IT基盤サービスの企画・営業を担当し、中国におけるセキュリティビジネスを推進。2009年よりクラウドサービス営業責任者、2013年よりIT基盤関連サービスにおける中国・ASEAN地域の営業責任者としてビジネスを推進。

IT-4 アジャイル開発とスクラム 16:40 顧客・技術・経営をつなぐ協調的ソフトウェア開発マネジメント

株式会社チェンジビジョン
代表取締役社長 平鍋 健児

【セッション概要】

アジャイル開発の根底には、80年代日本の製造業で行われていた暗黙知を利用した新製品開発手法がある。野中郁次郎らが1986年に書いた「The New New Product Development Game」に由来する、製品への要求を顧客との共体験を通して学び取り、それを仕様書ではなく体で開発に運ぶ、開発のあり方を紹介する。

【講演者略歴】UMLエディタastah*(旧JUDE)の開発等10年のアジャイル開発経験を持ち、開発現場をより協調的に、創造的に、そしてなにより楽しく変えたいと考えている。著書「アジャイル開発とスクラム～顧客・技術・経営をつなぐ協調的ソフトウェア開発マネジメント」など多数。

P
2
M
ト
ラ
ック

PA-1 ドラッカーに学ぶイノベーションのマネジメント 13:10 イノベーションの方法は学ぶことができる

O'Gatha Management Institute
代表 緒方 慎八

【セッション概要】

イノベーションとは「新しい価値を創造し、それを顧客、または社会に提供すること」だとドラッカーは言っている。イノベーションを行わない組織は衰弱して死に至ると言うのである。どのようにしてイノベーションの機会を組織的・体系的に探すか、見つけた機会をどうマネジメントし事業化して成果を刈り取るかについてドラッカーがコンサルタントとしての体験を通して纏め上げた原理・原則を紹介する。現代の事例に基づいてドラッカーの思想が生き生きと蘇る。

【講演者略歴】1971年日立製作所入社。ソフトウェアの設計・開発などIT技術開発、ビジネス開拓に従事。英国、米国等10数年海外でのマネジメントにも従事。2011年に米国クレアモント大学院大学ドラッカー研究所認定ドラッカーカリキュラムインストラクターとなる。

PA-2 ニュービジネス立ち上げ 14:15 関係者との合意形成

株式会社元気アップつちゆ
発電/売電担当 千葉 訓道

【セッション概要】

AEDは2003年厚労省の薬事認可から今年で10年を迎え、国内普及台数は既に40万台を越えた。医療機器分類で<危険度が高い;クラスⅢ>に属し、主な適用は<瞬間死に至る心室細動>である。<AEDの普及>とは、敢えてその適用領域を発生現場まで広げ、一般市民の参画を促し、日本の救命率を引き上げる!といった壮大なプロジェクトを意味する。ニュービジネス立ち上げの<壁と合意形成>事例を、行政/社内/顧客/チャネルから一つずつ紹介する。

【講演者略歴】東北大学工学部電気通信工学科卒。1979年横河ヒューレットパカード株式会社に入社以降、33年間メディカル部門で営業/販売促進/チャネル/国際営業など各部長。2011年被災後、福島県土湯温泉町の再生可能エネルギー発電事業会社<株式会社元気アップつちゆ>で復興再生事業に従事。

PA-3 規格の無い仕事のマネージメント 15:35 テレビ番組「クールジャパン」ができるまで

株式会社クリエイティブ・ネクサス
代表取締役 中川 幸美

【セッション概要】

コンテンツが制作ジャンルになって20年近く。ここにきて政府はクールジャパンやポップカルチャーを前面に打ち出した。私は、そのクールジャパン(日本のカッコいい文化)をテーマにした番組を8年前から制作している。新番組をどのように発想し、どのように制作体制を構築するかを、クールジャパンの8年の歩みを振り返りながら語る。
流れ:新番組の発想の仕方。
制作チームの作り方、問題解決。
番組から派生した事。

【講演者略歴】1981年フジテレビの契約社員。「ザ・ドキュメント」「ザ・貴族」などのD&A。1989年現在のCRネクサス入社。ドキュメンタリーと情報番組のプロデューサーを務める。現在は「クールジャパン」他特番をプロデュース。

PA-4 プロジェクトの真のグローバル化のために 16:40 企業力強化のためのプロジェクトデザイン

Global Project Design LLC
President Bryan R. Moser



【セッション概要】 ※講演は日本語で行います。

複数の国のメンバーが参加や、文化の違う企業が共同で参加するプロジェクトなど、昨今の複雑化したプロジェクトをどのようにプランニングするかは多くの企業の悩みの種である。今回、複数の地域、異文化とのコミュニケーション、国や企業をまたがったチーム間の調整、同時進行で実施するタスクや複雑な依存関係など、複雑に絡み合った事象を、ソシオテクノロジー論に基づいてビジュアル化するモデリングツールやプロジェクトの実施予測をするシミュレーション技法を紹介する。

【講演者略歴】MITを卒業後、初めての外国人技術者として日産自動車に入社。複数の会社を経て、1999年にGlobal Project Design社を設立。現CEO。2012年に東京大学院新領域創成科学研究科の博士課程を卒業。複雑系社会システムに関する研究発表を多数行っている。

エン
ジ
ン
建
設
・
公
共
ト
ラ
ック

EG-1 オーケストラを地域の宝に 13:10 サンフランシスコ交響楽団における公共イノベーション

デル株式会社 Japan Commercial Sales Operation
シニアプログラムマネジャー 林 宏典



【セッション概要】

公共・文化分野では、①有形無形のベネフィット・コストの考慮が必要、②多様なステークホルダーの合意形成・参加意識醸成、③自治体の財政難といった課題があり、プログラムマネジメントの視点が不可欠である。本講演では、音楽監督マイケル・ティルソン・トーマス氏の下、演奏、コミュニティ活動両面で近年急速に評価を高めているサンフランシスコ交響楽団の取り組みを例にとり、公共・文化分野におけるプロジェクト・プログラムマネジメントの価値を説明する。

【講演者略歴】業務改革、R&Dポートフォリオ管理からまちおこしまで様々なコンサルティングプロジェクト経験を有する。2010年より現職にて新規事業立ち上げプログラムを推進。George Washington UniversityにてPM修士号取得。PMS、PMP®

EG-2 超マルチベンダー(マルチプロジェクト)のマネジメント 14:15 病院情報システムおよび社会保障系大規模公共システム開発を例として

Annexe R&D株式会社
代表 井形 繁雄

【セッション概要】

大規模基幹情報システム構築のほとんどは、多様なAPの組み合わせによる超マルチベンダー/マルチプロジェクト状態となるが、個々のプロジェクトは与えられたミッションが全てであり、放置すると、勝手に動きだしカオス状態をもたらす。よって個々のプロジェクトを見張り、マスタープランに整合させる統治を行うPMO(プログラムマネジメントオフィス)が構築の成否を握る。超マルチ状態であった病院情報システムや大規模公共システムを例として、PMO運営の要諦を解説する。

【講演者略歴】1990年よりアクセンチュア株式会社で、多数の大規模システムSIおよびコンサルティングプロジェクトに従事。その後、2011年にAnnexe R&D設立。ICTを根拠にした新たなビジネスを模索する企業の事業立ち上げ支援や、業種を問わない大規模SIのPM支援など、幅広く活動。

EG-3 ERPでプロジェクトを可視化する 15:35 ERPとPMSで実現する経営の見える化

千代田化工建設株式会社 上席理事
ITマネジメントユニット/GM 増川 順一

【セッション概要】

企業が成長を続けるためには基盤整備が不可欠である。本年度、千代田化工グループは中期経営計画「時代を捉え、時代を拓く」を策定したが、この中の基本戦略にデータマネジメントインフラの整備と活用が挙げられている。この実現のために、プロジェクトデータの管理・活用に重きを置いたグローバルプラットフォームとしての基幹システム(ERP)の構築が行われている。プロジェクトマネジメントを生業とする弊社が10年後のあるべき姿を目指して進めている一つのITプロジェクトを紹介する。

【講演者略歴】スタンフォード大学石油工学科修士課程修了。イラン、カタール、インドネシア等のプロジェクトに従事。その間に統合プロジェクトエンジニアリングシステムの開発企画を担当。サハリン、カタールの大型LNGプロジェクトのITマネジャーを歴任。2007年以降、ICT全般を統括。

EG-4 ecoBCPによるスマートシティ創造 16:40 新たな価値創造と成長に向けて

清水建設株式会社 ecoBCP事業推進室
室長 那須原 和良

【セッション概要】

東日本大震災の貴重な経験を踏まえ、これからの社会に必要なものは「eco」環境配慮と企業の事業継続「BCP」、生活の維持「LCP」であり、我々の使命はecoBCPによるレジリエントなまちづくりと考えている。本講演ではecoBCPによるスマートシティ創造に向けた重要要素である電気・熱・情報のネットワーク技術、実証例、現在取組中の実施例をいくつか紹介する。また、スマートシティによる新たな価値の創造や成長に向けた今後の課題について述べる。

【講演者略歴】1981年清水建設入社。2007年設計本部副部長、2010年設備本部副部長、昨年4月ecoBCP推進室新設と共に室長就任。これからの社会に必要なものは、「eco」環境配慮と事業継続「BCP」、生活の維持「LCP」との信念からecoBCPによるレジリエントなまちづくりを推進中。